SAPIX

3月度入室・組分けテスト（二〇一八年三月十一日実施）

新4年（現3年）国語

（時間……40分）

★問題用紙は全部で8まいです。
☆名前などは解答用紙と問題用紙の両方に書きましょう。
☆答えはすべて解答用紙に書きましょう。
☆答えは解答らんにおさまるように、こく、はっきりと書きましょう。

名前 [redacted]

18−3月組−

1

次の1〜10の――線の漢字はひらがなに、ひらがなは漢字に直しましょう。

1 川岸に向かって泳ぐ。
2 路地を通って学校へ行く。
3 お風呂から湯気が立つ。
4 温かいりょくちゃを飲む。
5 秋にとざんを楽しむ。
6 とうふはだいずから作られる。
7 たはたをたがやす。
8 旅先でやどにとまる。
9 重い荷物をはこぶ。
10 古いいしばしをわたる。

2

次の1〜5の――線のことばとにた意味のことばとして、もっともふさわしいものをそれぞれのア〜エの中からえらび、記号で答えましょう。

1 内気な性格の弟をかばう。
ア めんどうをみる　イ ほめる　ウ 守る　エ 注意する

2 きょう、友だちとあそぶことをためらう。
ア まよう　イ やくそくする　ウ 決心する　エ わすれる

3 お母さんにおこられて、そそくさと家を出る。
ア ゆっくりと　イ しょんぼりと　ウ がっかりと　エ さっさと

4 なっとくのいくできばえになった。
ア 感心する　イ まんぞくできる　ウ 自まんできる　エ 注目される

5 彼はえんりょがちに手をあげた。
ア ひかえめに　イ しずかに　ウ 必死に　エ 積極的に

3

次の文章を読んで、あとの問題に答えましょう。（＊のついたことばの意味は、文章のあとに説明されています。）

〈ここまでのあらすじ〉
悠斗は、夏休み中にさかあがりの練習をしているかっこう悪いすがたを、なんでも先生に見られてしまいました。そして、さかあがりができないまま、新学期がはじまりました。なんでも先生は、学校で、ほかの先生や困っている生徒をほじょする先生です。

神崎先生は体育はなんでもとくいだ。a あざやかにさかあがりをして、「それでは、班ごとに練習開始。」と号令をかけた。

先頭四人が回りはじめた。ほかの人はぶつからないように、体育ずわりで待っている。孝道くんは（1）回って、はくしゅを受けている。なんでも先生は、てつぼうのそばでじこがおきないように、しゃがんで見ている。

悠斗の番になった。

てつぼうを持って、いっち、にいと、体を前後にゆらした。

「えいっ。」

足はけっこう上がったけれど、もうすこしのところで床に落ちてしまった。

「あれ？　できないんだっけ。」

悠斗が列にもどるとき、孝道くんが言ってきた。

「つぎは、きっと。」

①小さい声で、そうこたえた。

順番がまた近づいてくる。孝道くんは、高いてつぼうでもすいっと回った。

なんでも先生は、回れない子の背中をおして、回転を助けていた。

（ほじょしてもらったら、できるかな。）

順番が近づいてくる。時生くんが、ガーッて回るんだぞと、b 耳うちしてくれる。

うんと、こたえたけれど、やはりうまくいかなかった。

みんなはくるくる回っていく。なんでも先生のほじょで回れた子もいた。

時生くんがいちばん高いてつぼうで、あざやかにくるくるっと二回転を決めた。

（やっぱり、時生くんはすごいや。）

②悠斗はだれよりも大きくはくしゅした。そのいきおいで自分もできそうな気がしたけれど、やっぱり同じ結果だった。

せいりたいそうをすませてろうかに出ようとすると、うしろから孝道くんがぶつかってきた。でも孝道くんは、なにも言わずにろうかに走っていった。

「どうした？　元気ないぞ。」

なんでも先生が、声をかけてきた。

③しょんぼりのげんいんを先生は知っているはずだ。

なにもこたえずにいると、先生はポケットから紙を出した。

また、④てつぼうをする男の子の絵だった。まえのときの絵よりも表情やてつぼうがしっかりとかいてあり、木や空や雲もあった。

いやだって言ったのに、どうしてかくんだろう。

「先生、まえに、もうかかないでくださいって……。」
すると、先生は、めずらしく悠斗の声をさえぎってきた。
「きみはしっぱいって言うけれど。」
「……」
「これは……、がんばってるしょうこにはならないかい？」
「え？」
先生はなんまいも、絵を見せた。時生くんがわりこんで、絵をのぞきこんできた。
「すげぇ、オーバーヘッドキックだ。」
「オーバーヘッド？」
「サッカーのキックでこういうのがあるんだ。頭の上のボールをガツーンって、うしろのほうにけるんだ。プロだってむずかしいんだぞ。」
時生くんの目が(2)かがやいている。
悠斗ももう一回、絵を見てみた。
（がんばってるしょうこ？）
絵の中の青い空には、もくもくと白い雲がうかんでいる。
「空を……けっとばしてるみたい。」
「空を、けっとばす？　そうだそうだ。その気持ちだよ。」
先生が体を乗りだしてきた。
悠斗はもう一度、(3)絵を見た。
男の子の頭の上には青い空があった。足はまだてつぼうをこえてはいないけれど、うでが体を持ち上げて、足が上がっている。もうすこしこの足が頭のほうに近づけば、もう少し力が出れば……。
いや、それでも。
できる、できない、できる、やっぱ、できない。
⑤ふりこのように気持ちはゆれる。

《中略》

給食が終わると、十五分の昼休みがある。このごろ時生くんにつきあってもらって、さかあがりの練習をしている。きょうも練習にいこうと思ったら、
「中庭は一、二年生用じゃなかったっけ。」
と、孝道くんが悠斗の前に立ちはだかってきた。見られていたんだ。そう思うと、⑥体がかたくなってきた。
「悠斗さ、たしかできるって言ってなかった？　さかあがり。」
野球ぼうをつかんでだまっていると、
「あれ、うそ？」
と、孝道くんがつめよってきた。
うそじゃないよとこたえたのは、時生くんだった。
「だれだって、練習してできるようになるんじゃないか。」
「そうだけど？」
「孝道だって、最初からさかあがり、できたか？」
孝道くんは、うーんと、教室の天井を見あげてから、わすれた、と言った。

「おれ、すぐできたから、そんなしょぼいこと、おぼえてない。」
「できないのって、しょぼいか？」
悠斗は、言いあいをしているふたりにはさまれて、小さくなっていた。
「なんだよ。おれはただ、悠斗にうそつかれたって言っただけだよ。」
「じゃ、うそじゃなくすればいいんだろ。」
「どうやって。」
「いくぞ！」
急に時生くんが、悠斗の手をひっぱった。
「え？　え？」
「孝道も来いよ。」
時生くんが先頭になり、三人はろうかを歩いた。

ついたところは中庭だった。
「お、きょうも練習か。えらいな。」
図工室にはなんでも先生がいて、どこかの学年の絵を、クラスごとにせいりしていたようだった。
「おや、孝道くんもいっしょか。いいことだ。」
「先生、そんなんじゃないんだ。たいへんなんだ。」
悠斗が言うと、早くしろよと、孝道くんがせっついてくる。
時生くんが、「オーバーヘッドキックの感じだぞ。」と、悠斗の背中をドンとたたいた。
「う、うん。」
鼻からたくさんの空気をすって、⑦悠斗はてつぼうをにぎった。
「空をけっとばせ。空をけっとばせ。」
きょうの空には、雲がひとつもない。
「えいっ。」
思い切って足をふり上げたけれど、ばたんと落ちた。
「あぁー。」
時生くんが頭をかかえた。声にはなっていないけれど、⑧「う、そ、つ、き」と、孝道くんの口が動いた。
「つぎだよ、つぎ。」
時生くんがかばってくれるけれど、つぎにできるなんていうほしょうはない。
悠斗はてつぼうをにぎりなおして、おでこをつけた。
てつぼう、てつぼう。きょだいなホチキス。
（もうたたきません。けりません。ぼくのみかたをしてください。）
そういのっても、うちゅう人が孝道くんといっしょになって、わらっている気がする。
悠斗がなきそうな顔になると、なんでも先生が図工室のまどから身を乗りだしてきた。
（空を……空をけっとばせばいいんだ……。）
「えいっ。」
体をまるめて足をけり上げると、頭から野球ぼうが落ちた。頭が(4)軽くなって、図工室と空がグルン、と動いた。

（え？）
「できたぞ。悠斗くん！」
「悠斗！」
時生くんがさかさまになって、近づいてきた。
なにがおこったのか、わからなかった。ストンと地面におりると、ふわふわしてしりもちをついてしまった。
「やった、やった。」
時生くんがジャンプしている。なんでも先生の体はまどから落ちてしまいそうだ。
孝道くんはちょっとはなれたところにいた。長い前がみでかくれている⑨目が、まるくなって⑩孝道くんは悠斗に向かって、ゆっくりいた。なにかへんなことを言われるかと思ったら、
と親指を立ててきた。
⑪「やったー！　できたぞー！」
悠斗は空を見あげた。きょうの空は青すぎて、目がちかちかした。

（升井純子『空をけっとばせ』講談社）

＊中略＝文章をとちゅうではぶくこと。

問一　(1)〜(4)にあてはまることばとして、もっともふさわしいものを次の中からえらび、それぞれ記号で答えましょう。（同じ記号は一回しか使えません。）

ア　ジロジロと　　イ　キラキラと　　ウ　くっきりと　　エ　ふわっと
オ　くるっと　　カ　おずおずと　　キ　じいっと

問二　〜〜線a「あざやかに」、〜〜線b「耳うち」の本文中の意味として、もっともふさわしいものをそれぞれのア〜エの中からえらび、記号で答えましょう。

a　「あざやかに」
ア　うれしそうに
イ　ほこらしげに
ウ　みごとに
エ　おもしろそうに

b　「耳うち」
ア　相手の耳もとでそっとささやくこと
イ　みんなに聞こえるようにおうえんすること
ウ　耳が赤くなるくらい夢中でつたえること
エ　ことばに出さずに気持ちをあらわすこと

問三　——線①「小さい声で、そうこたえた」とありますが、このときの悠斗はどのような様子ですか。もっともふさわしいものを次の中からえらび、記号で答えましょう。
ア　孝道くんに、みんなの前でうそつきであることをせめられたので、くやしい様子。
イ　あともう少しのところでいつもしっぱいをするので、いやけがさしている様子。
ウ　本当はできないさかあがりのことを、孝道くんに聞かれたので、気まずい様子。
エ　さかあがりができないことがみんなにばれてしまったので、きんちょうする様子。

問四　――線②「悠斗はだれよりも大きくはくしゅした」とありますが、なぜですか。その理由として、もっともふさわしいものを次の中からえらび、記号で答えましょう。

ア　時生くんがいちばん高いてつぼうで、孝道くんでさえもできなかった二回転のさかあがりを成功させたので、気持ちがすっきりしたから。

イ　だれにでも親切で、勉強だけでなく、てつぼうも上手にできる優等生の時生くんと親友でいられることにほこらしさを感じたから。

ウ　悠斗にさかあがりのコツを教えてくれた時生くんは、どんなてつぼうでも軽々とこなしてしまうので、うらやましくて力が入ったから。

エ　悠斗のことを気にかけ、協力してくれる時生くんが、高いてつぼうでさかあがりを決めたので、自分のことのようにうれしかったから。

問五　――線③「しょんぼりのげんいん」とありますが、なぜ悠斗はしょんぼりしているのですか。その理由として、もっともふさわしいものを次の中からえらび、記号で答えましょう。

ア　悠斗は孝道くんにうそをついてしまい、孝道くんとけんかをしたまま仲直りができないから。

イ　みんなはさかあがりができるのに、悠斗はいっしょうけんめい練習をしてもさかあがりができないから。

ウ　なんでも先生が悠斗にいやなことばかりをして、なんでも先生のことがきらいになってしまったから。

エ　きょうの授業で、みんなの前でさかあがりをしっぱいしてしまい、孝道くんにもばかにされたから。

問六　――線④「てつぼうをする男の子の絵」について、次の(1)・(2)の問題に答えましょう。

(1)「てつぼうをする男の子」とは、だれのことですか。もっともふさわしいものを次の中からえらび、記号で答えましょう。

ア　時生くん
イ　孝道くん
ウ　悠斗
エ　なんでも先生

(2)　なんでも先生が、悠斗に「男の子の絵」を見せたのは、なぜですか。その理由として、もっともふさわしいものを次の中からえらび、記号で答えましょう。

ア　むずかしい体の使い方ができているということを知ってほしいから。
イ　どうすればできるようになるのかということを考えてほしいから。
ウ　がんばっているしょうこでもあるということをつたえたいから。
エ　もう少し足が上がればさかあがりができるということを教えたいから。

問七　――線⑤「ふりこのように気持ちはゆれる」とありますが、このときの悠斗の気持ちとして、もっともふさわしいものを次の中からえらび、記号で答えましょう。

ア　時生くんに、苦手なさかあがりの練習につきあってもらうよう、勇気をだしてたのもうかどうか、まよう気持ち。

イ　もう少し練習をすればさかあがりができそうなので、これからもいっしょうけんめいがんばろうと意気ごむ気持ち。

ウ　絵にかかれた男の子のようにがんばれそうな気がするが、本当に悠斗にできるかどうかわからなくて、なやむ気持ち。

エ　なんどもさかあがりの練習をしたのに、しっぱいしてばかりいるので、もう自分にはできないとあきらめる気持ち。

問八　――線⑥「体がかたくなってきた」とありますが、このときの悠斗の気持ちを説明しましょう。

問九　本文の「　　」（3ページ36行目〜4ページ8行目）の中から読みとれる時生くんの性格として、もっともふさわしいものを次の中からえらび、記号で答えましょう。

ア　自分の意見を言えない、内気な性格。

イ　人のいやがることをする、強引な性格。

ウ　ロげんかでは負けない、かしこい性格。

エ　友だちを思いやれる、やさしい性格。

問十　――線⑦「悠斗はてつぼうをにぎった」とありますが、このとき、悠斗にはてつぼうがどのように見えているでしょうか。てつぼうをたとえたことばを本文中から**九字ちょうど**でぬき出して答えましょう。

問十一　――線⑧「う、そ、つ、き」とありますが、孝道くんは、だれが何と言ったことにたいして、うそつきと言っているのですか。説明しましょう。

問十二　――線⑨「目が、まるくなっていた」とありますが、このときの孝道くんの気持ちとして、もっともふさわしいものを次の中からえらび、記号で答えましょう。

ア　ふしぎな気持ち。

イ　安心する気持ち。

ウ　うれしい気持ち。

エ　おどろく気持ち。

問十三　――線⑩「孝道(たかみち)くんは悠斗(ゆうと)に向かって、ゆっくりと親指を立ててきた」とありますが、なぜ孝道くんは親指を立てたのですか。その理由として、もっともふさわしいものを次の中からえらび、記号で答えましょう。

ア　悠斗がかっこうよかったので、今までのことを申しわけないと思ったから。
イ　悠斗がさかあがりに成功(せいこう)したので、うそつきではないとみとめたから。
ウ　悠斗がついにむずかしい二回転を決めたので、心から祝福(しゅくふく)したかったから。
エ　悠斗が苦手なてつぼうをがんばっていたので、すなおに感動したから。

問十四　――線⑪「やったー！　できたぞー！」とありますが、このときの悠斗の気持ちを、本文全体を読んで説明(せつめい)しましょう。